

ジャーナル学科 との出会い



「地域ジャーナリスト」をめざして

2012年4月、私達15人は「ジャーナル学科10期生」として入学しました。

この一年間で、澤野久美子先生から「人に情報を伝えるのには何が必要なのか、どういう方法で伝えるのか」など、身近な事から情報を発信するノウハウを学びました。実際に一人で作る「達人シリーズ」や、5人のグループで作る冊子（今年のテーマは健康）を企画・構成・取材・編集をしました。ジャーナル学科の修了生であるスタッフの方々にアドバイスを頂きながら校正を繰り返し、作品を仕上げました。思考錯誤して完成した時の達成感は最高です。

また、取材のインタビューに快く答えて下さった方とのお話や、制作グループの人達とのお互いにわからない事をカバーし合いながら協力して作った過程で、人とのつながり・仲間の絆を実感できたように思います。

修了生の方は、それぞれいろいろな形で地域活動などに参加していらっしゃると思います。きっと、シニアでなければできない情報発信もあると思います。

これからもたくさんの「地域ジャーナリスト」が生まれることを願って、諸先輩のご協力を頂き、私達が学んだ「ジャーナル学科」について紹介する冊子を作成しました。

目次

- ➡ ジャーナル学科って何ですか? 3
- ➡ 1年間で学んだこと 4
- ➡ 現役・OBへのアンケート 6
- ➡ ジャーナル学科について一言 8
- ➡ 過去10年の冊子名一覧表 10
- ➡ 修了生インタビュー ただいま活動中 . . . 12
- ➡ ジャーナル学科のこれから 13

ジャーナル学科って何ですか？

ジャーナルとは、本来、新聞や雑誌等の定期刊行物のこと。その他ジャーナルは学術雑誌、会計における売上データのレシート、コンピュータのファイルなどの変更履歴等にも使われている。

昔の日本のジャーナル媒体としては瓦版があるが、西暦1614-1616年の大坂の役を伝えた瓦版が現存する最古のものといわれている。明治時代になって新聞がジャーナルの主流になり、1870年以降、各日刊紙が発行されるようになった。



さてジャーナルを学ぶには現在、大学では上智大学、日本大学等に新聞学科があるものの、市民大学を含めたカレッジではジャーナル学科というのは珍しい。その中でも私たちが学んだ 狭山シニア・コミュニティ・カレッジのジャーナル学科はすでに10年間の実績がある。では狭山のジャーナル学科とは何なのだろう、何を学ぶのだろう。

何なの、何を学ぶの・・・

ジャーナル学科は一言でいうと地域ジャーナリストの養成講座を学ぶところである。

地域ジャーナリストとは地域の人々（受け手）が求めている町の情報や興味の対象を見つけ出して取材し、分かり易い形に編集して提供する人たちである。私たちがジャーナル学科で学ぶことも「情報を的確に伝えるには

どうしたら良いか」「読んでもらえるものを作るにはどんな工夫が必要か」を主眼としている。道具としては「私達のハート」、「パソコン」、「デジタルカメラ」があり、冊子編集、印刷とともにこれらの必要な知識と技術を学んでいる。さてこの10年間で、私達のジャーナル学科の修了生

は200名となる。

修了生のその後の活動をみると、自治会、地域同好会の広報誌づくり、校友会、同窓会の



会報づくり、各種の地域ボランティア活動の写真、ポスターづくり等をおこなっている。

ジャーナル学科と狭山市民

狭山市は典型的な東京のベッドタウンである。私もそうだったが60歳過ぎで退職するまで狭山の自宅はまさに寝に帰るところだった。若いニュータウンは近年シニアが過半数を占めるオールドタウンに変貌しつつある。まずこのシニア層（当然主婦も含め）の皆さんに「わが町狭山を知ってもらおう」「そして興味あるテーマを一緒に探す」さらに理想的にはジャーナル学科修了生を媒体としてお互い元気に頑張りましょう…を発信し続けたいと思っている。

もう一度「ジャーナル学科って何ですか」と尋ねられれば、「市民相互を知ってもらう架け橋」「市民と行政をつなぐ架け橋」そして「元気つける情報発信媒体」と謙虚に答えることにする。

（取材・文 加部利明）

1年間で学んだこと(1)

4月

*ジャーナリズムとはコミュニケーションである。ジャーナル学科で行うこと。

- ① 考える⇒企画
- ② 調べる⇒取材
- ③ 記録する⇒メモ、録音、撮影
- ④ 表す⇒執筆
- ⑤ 組み立て直し、構成⇒編集
- ⑥ 提供する⇒発行

*クラス仲間との総当たりインタビュー

*デジタルカメラの使い方

- ・カメラの構え方…片手は下からカメラを支え両脇は軽く閉める
- ・「狭山市ユースプラザ」の教室外でカメラを構えて写し文章を添えることを学ぶ

*インタビューのコツ

良いことから質問する。信頼関係ができてから失敗談などを質問する。

- 話しやすい場づくり…聞き手のリアクション
- ① 相手の話を受ける
 - ② 相手の考えを引き出す
 - ③ 否定しない

5月

*天声人語の音読練習

*フォト川柳に挑戦

川柳…五七五で詠む短詩。季語なくて良く、諧謔、風刺、機知を表現する。写真は「教室：ユースプラザ」の外で撮る。そこでコガネムシを撮りながら…「こがねむし つつじ吸うかよ 恋狂い」(筆者)など詠む。

*文章の書き方

極力短文。
結論から書き、
次に説明。
余計な結びは
書かない…感想は読者にまかせる。



6月

*USBメモリーの使い方。

*クラス仲間1対1でインタビュー記事を書く。チャームポイントを紹介するためにオープンクエスチョンでまず質問する。

*インタビュー記事をテキストボックスでレイアウトする。テキストボックスの移動、コピーの仕方等PC上の各種技法を学ぶ。

*インタビュー記事づくり(全員)

このころから各人記事づくりと先生の添削が本格化する。ひとによっては七転八倒。

*広報誌の作り方のポイント

企画会議—編集会議—原稿依頼—取材—写真撮影—原稿書き—原稿整理—見出しつけ—レイアウト—印刷—校正—印刷のそれぞれの工程を学ぶ。

*企画案の出し方と台割表の作成

7月

*クラスを5人ずつの3班に分け、各班毎に「健康冊子」づくりを始める。

- ・創造力と記憶力を高めるマインドマップ。
- ・台割—ラフレイアウト—取材コンテ
- ・健康冊子は11月末のSSCC文化祭に出展、その他の出展は「〇〇新聞」(各班)、「達人シリーズ」の冊子(全員)。

夏休みを前にして各人 やや疲れ気味。

*7~9月にかけて体育祭の練習をクラス全員で始める。



1年間で学んだこと(2)

8月

- *夏休み。冊子制作準備のため1~2回集まった班もあった

9月

- *名刺の作り方(PCから)
- *エッセイの書き方
 - 決めたトピックに関連するキーワードを「ブレインストーミング」方式で書き出す
 - キーワードを整理する
 - 三部構成へ
導入部—本論部—結論部
 - 「したこと」⇒「結果」⇒「考えたこと」の順で書く
- *「2012年 私の夏」クラス全員、エッセイ風を書く。それぞれ先生の添削を受けた。
- *文化祭ポスターの作り方
- *配色の基礎知識 ほか

10月

- *ページレイアウトの仕方
段組み、余白の取り方、写真の位置、テキストボックスの使い方、割付け印刷の仕方
- *原稿整理と校正の仕方
- *校正記号の使い方
- *新聞(壁新聞)の作り方

11月

- *デザインの基本
「写真のジャンプ率」の説明 ほか
- *見出しの研究
「概要」「アイキャッチ」「強調」「惹句」など勉強

- *PCでの保存について
ばらばら回避①グループ化②pdfで保存し送信
- *このころ 各班は「健康冊子」づくりが佳境に入りフーフー



12月

- *座談会について
本格派や個性派を集めて本音を話し合ってもらおう
- *テープ起こしについて
- *各班が制作した「健康冊子」の講評会
- *来年3月にむけての「修了冊子」制作のため、新たな班編成

1月

- *「正月」についてクラス各人3分間のスピーチ披露
- *「修了冊子」制作のための各班勉強会と先生との質疑

2月

- *ラフレイアウトについて
- *表紙について
- *目次について
- *本文のレイアウトについて
- *人物撮影で気を付けること
- *インタビュー記事の書き方
- *アンケートを作るコツ
- *「記者ハンドブック」の紹介

- 3月** *制作プロセス復習、修了冊子講評
(取材・文 加部利明)

現役・OB へのアンケート

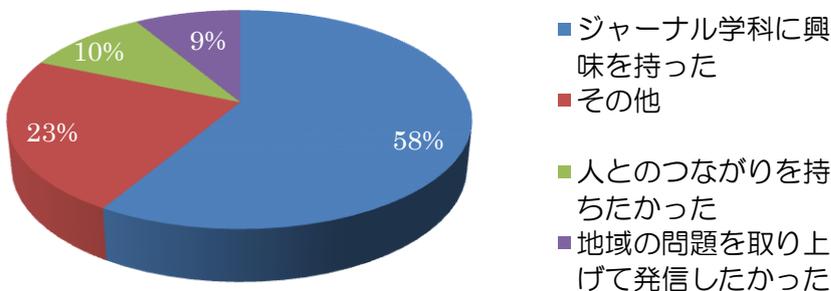
今回アンケートを採るに当たってジャーナル学科の修了生や現在受講されている方々1期生～10期生合わせて200名中149名の方にアンケートをお願いしたところ、100名実に67%もの方から回答をいただきました。集計作業の中で先

輩方がこの学科を修了された後、実際の仕事やボランティア活動、地域の雑誌の出版等多方面で活躍されていることに驚きました。学んだことが生きていく中で非常に役に立っていると答えられた方も多数おられました。この学科の意義を改めて感じました。

(取材・文 鈴木房子)

ジャーナル学科を選んだ理由

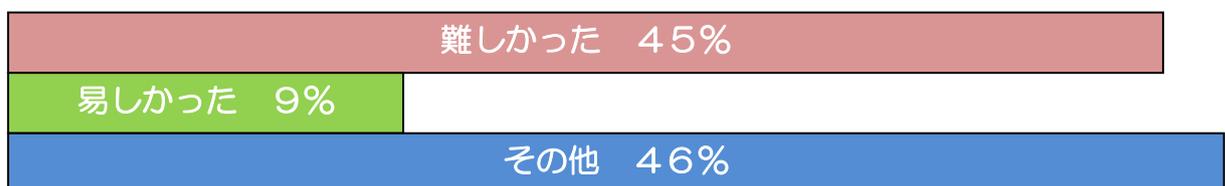
ジャーナル学科に興味を持った 58%



その他の内訳

- 他の学科を希望したが入れなくて
- 写真やイラスト等の入った冊子づくりがしたかった
- Wordの習得が目的
- 文化祭を見て興味を持った

講義の内容はどうでしたか？

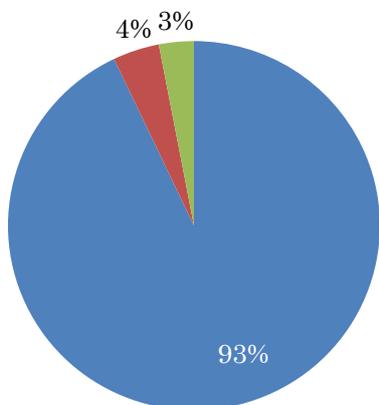


その他の内訳

- 授業の内容は理解できたが、パソコン操作が難しかった。
- 冊子づくりが難しかった。時間に追われた。
- 難しかったが、その後の活動に役に立った。
- 毎回勉強になった。新鮮で楽しかった。
- 先生の人柄がよく、何でも話し合えた。
- 知らないことで毎週楽しかった。

冊子制作についてどう思われますか？

あった方がよい 93%

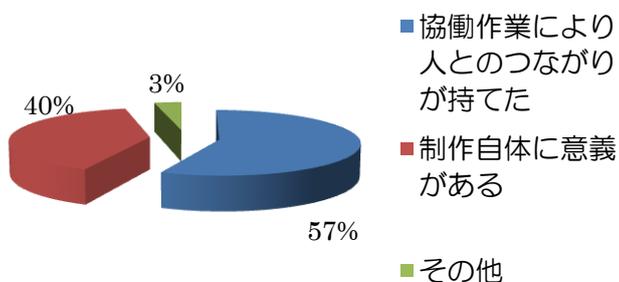


■ あった方がよい
■ その他
■ 無い方がよい

あった方がよい理由は何ですか？

協働作業により人とのつながりが持てた 57%

制作自体に意義がある 40%



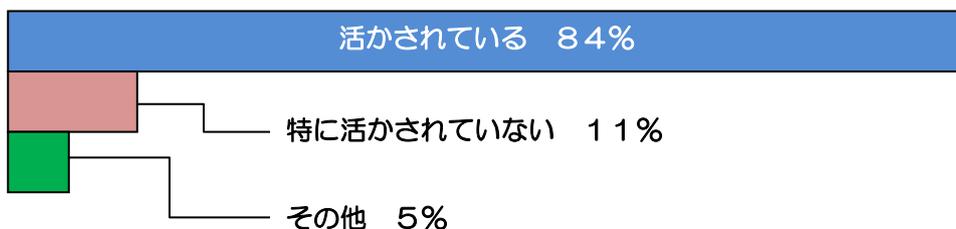
■ 協働作業により人とのつながりが持てた
■ 制作自体に意義がある
■ その他

その他の内訳

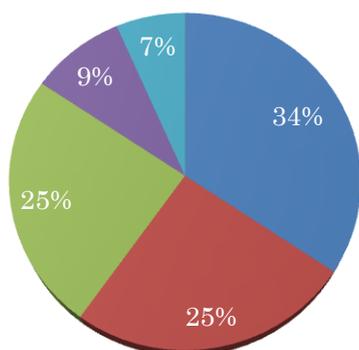
- やや負担、一年一回でもよい
- 冊子制作の目的を明確に
- 修了生も自由に閲覧できる場がほしい

学んだことが自身の生活の中で活かされていますか？

活かされている 84%



どのように活かされていますか？



■ サークルや同人誌に
■ 地域活動（自治会等）に
■ ボランティア活動に
■ その他
■ 仕事に

ジャーナル学科について一言

アンケートの記述欄にジャーナル学科修了生、および現在受講されている方々からこの学科に対する熱い思いが伝わってくるたくさんのご意見をいただきました。

1 期生



創作ビデオに興味がありその分野でサークル活動を行っている。現実のニュースやドキュメンタリーの裏側の真実を読み取る力もジャーナリストには必要だ。(Sさん)

歴史調査や文化財調査の表作成や報告書、冊子のレイアウト、発表などに役立っている。(Y.Sさん)

それらすべてをここに掲載したいと思いましたが、紙面の関係上残念ながら割愛せざるを得ませんでした。また、文章を縮小して掲載させていただいた事をご容赦願います。

(取材・文 鈴木房子)

1期3班のメンバーはそれぞれ地域活動のリーダーとして活動しています。短い1年でしたが得た信頼は深く、関連した地域活動の中で今も交流が続くうれしい限りです。(Tさん)

ジャーナルの知識と技術的なことの習得はもちろんのこと地域に年齢差を超えた「同級生」ができたことは最も嬉しい。10年たった今もジャーナル学科で取材に行った時のことが話題になります。

(K.Mさん)

2 期生

有志による「ジャーナルスケッチ」は通巻70号を数える。ジャーナル学科のスタッフを8年、SSCCの「カレッジニュース」の編集委員、社協の「ふれあい通信」の通信員などをしている。(T.Tさん)

SSCC そのものが、全国でも珍しい。地域のジャーナリストになって求められる情報をわかりやすく提供してください。(Nさん)

自分史制作等一生の財産になった。(Iさん)

3 期生



取材をしていろいろな人に巡り合えた。文章で意見を正確に伝えることの難しさを感じた。(Bさん)

紙メディアから電子メディアの転換は地域貢献のチャンスが期待される。受講生は修了後の活動を念頭に学習に励み、もっと地域で活動する仕組みを考えてほしい。(Hさん)

4 期生

修了後、学んだ知識と技術を継続させる目的で、同好会を立ち上げ冊子を発行している。昨年までに40冊。今年で8年目。現在は8名で継続している。(Uさん)

ジャーナル学科で学んだことは、いろいろな場で役に立っている。文章の書き方から編集の仕方まで(Wさん)



5期生

SSCC の各学科で冊子制作の中心になるのはジャーナル学科修了生が多い。もっと表に出て、自信を持って行動してほしい。(Hさん)

6期生

ジャーナル学科で培った知識は思いもよらないところで役に立ちそうです。ジャーナル学科が難しいという変な評判が立ち、応募者が少ないのが残念。(Oさん)

7期生

課外授業の一環として竹橋の毎日新聞社見学があった。個人ではできないことなので貴重な経験になった。(Uさん)



8期生

「とうかえで8期生」を発足。親睦会も盛んに行っている。受講期間中に 3.11 の大震災もあった。(Mさん)

9期生

25年から再受講可になった。できれば「中級」「実用」を作ってほしい。これからは超高齢化の時代、いろいろな問題を発信していく地域ジャーナリストの育成が大切。(Oさん)

10期生

冊子を作ることに労力を費やされ翻弄された。

地域の子供のボランティア活動に関わり、その記録や報告のための写真を撮り、ポスター作成を担当している。また、マイ新聞を不定期に発行200号を目指す。(ただいま165号) (Mさん)

必要な情報をより早く得るための基礎を学んだ。冊子制作により、難問に取り組んだ活動を懐かしく思い起こす。(Nさん)

情報を集め必ず完成させる手法を教えてくださいました。何事もやればできると。ジャーナル学科との出会いは人生を豊かにしてくれた。(Tさん)

共同作業は楽しくもあるが、嫌な思いも引きずった (Sさん)

人の役に立つ情報発信の意識を持って余生を歩くことを学んだ。(Iさん)

撮影会の案内、囃子保存会の行事予定連絡・プレイパークの報告書・ふるさとギャラリーの看板製作など (Sさん)

周りの新聞、雑誌、案内書などを作る立場に置き換えてみるようになった。気づいたことをこのようにまとめて書けたらと思う。(Sさん)

自分の無知を知った。考えることを大事にするプロセスの意義を再認識した。

過去 10 年の冊子名一覧表

(取材・構成 匹田文字)

発行日	冊子名★サブタイトル (取材記事のタイトル)	発行日	冊子名★サブタイトル (取材記事のタイトル)
1 期生		05.01	2005 今を生きる エッセイ集
02.07	楽書楽座 ★最初の出会い・あの顔この顔	05.03	子育て支援 ★出生後から学齢期前まで
02.10	けやき ★ジャーナル学科の深層を探る	05.03	補助犬読本 (こうして盲導犬になる 他)
02.10	狭山の食文化 うどん	05.03	激震 (体験レポート「激震! 震度6強!」 他)
02.10	楽書楽座 ★生きがいづくりを探る	05.03	終のすみか (狭山市の高齢者と福祉の現状)
02.10	Rakugaki rakuza ★七人の落書き帳	4 期生	
02.12	けやき ★あなたも始めてみませんか!	05.07	ともに学ぶ インタビュー集
03.01	つれづれなるままに (神社の「お宝」拝見 他)	05.10	学ぶシニア★まなび方いろいろ (大学で学ぶ)
03.01	楽書楽座 ★狭山の魅力を探る	05.09	夢 ライフ ★高齢者の就労を探る
02.12	楽書楽座 ★映画 それぞれの思い入れ	05.10	孫に語る狭山の空襲 そして戦争中の人々の暮らし
03.03	唐楓 (ヴァイオリン制作って……)	05.09	和みのとき ★特集 さやまの絵本 お酒のはなしいろいろ
03.03	らくがき楽座 ★「思い出の旅」他	05.12	歩く ★いい汗かいて健康づくり
03.03	はばたけ ★SSCC を受講して	05.12	地震に備える
03.03	楽書楽座 ★生涯学習と地域社会への貢献	05.12	茶の花号 狭山すてき旅
2 期生		05.12	花めぐりガイド ★狭山と近郊
03.07	楽書楽座 2003 インタビュー集	06.03	本を楽しむ★図書館へ行こう 私の本棚
03.10	五翔のシンフォニー ★高齢者の安全について	06.03	団塊の世代へのメッセージ シニアの趣味 ★人生の第2ステージを応援する
03.10	SSCC ジャーナル学科 2003 ★狭山市の将来に残しておきたいもの	06.03	狭山再発見 狭山の技術・匠の味 ★特集 狭山の技術 世界に誇る企業 命を預かる食のこだわり 匠の味
03.10	これを読めばボケは防げる	5 期生	
03.10	狭山の環境 (よみがえった川-入間川 他)	06.07	とうかえで〜いいともみつけ隊 インタビュー集
04.02	狭山ジャーナル 2003 ★大きく伸びよ! 狭山の子どもたち	06.10	シニアライフをすこやかに
04.02	狭山ジャーナル 2003 ★ボランティア	06.09	知ってなっとく 狭山市の駐車監視委員 制度 (狭山警察署に聞く 他)
04.02	狭山ジャーナル 2003 ★狭山市の国際性	06.10	ひろっぱ ようこそ稲荷山公園へ
04.02	狭山ジャーナル 2003 ★健やかに生きる	06.10	かがやき (特集 山歩きの魅力 ウォーキングと 私〜目指すぞ1億歩!【地球1.8周】〜 他)
3 期生		07.01	親子で楽しむ狭山の子育て施設
04.07	とうかえで インタビュー集		
04.10	HABATAKI ★特集: 現代お葬式読本		
04.11	高齢者と、障害者と、自然と共に生きる		
04.10	第二の故郷を知る地域情報誌★狭山わが街		
04.10	銀河 ★入間川七夕まつり		

発行日	冊子名★サブタイトル（取材記事のタイトル）	発行日	冊子名★サブタイトル（取材記事のタイトル）
06.12	団塊世代のみなさんへ 公民館で楽しく学びませんか	10.11	私の健康法 積極的な健康管理
07.01	茶の花号で行く シニア憩いの施設	10.11	明日葉～長生きすることは素晴らしい
06.12	シニアのための健康診査 ★自分の健康は自分で守ろう	10.10	健康寿命を延ばし豊かな余生を寝たきりにならないために
07.03	行って…見たい…狭山市の姉妹・友好都市	10.11	うつでも～熟年世代を明るくさわやかに
07.03	ごみを活かす（空き缶・空きびんを活かす 他）	11.03	心の癒しを求めて（絵札のできるまで 他）
07.03	いざ！というときのために	11.03	別冊 狭山市郷土かるた
07.03	むかし むかし 狭山のふるさと行事	11.03	過去から未来へ 狭山でみ～つけた
6期生		11.03	くらし彩り★つたえていきたい伝統行事
07.07	明日に向かって インタビュー集	11.03	できることから始めてみよう 楽しくボランティア
07.07	狭山市ユースプラザご案内	9期生	
07.07	狭山市ユースプラザ利用案内	11.09	ハートフルな仲間たち インタビュー集
07.12	入間川の自然 晩秋編（入間川の野草と木 他）	11.10	自然と歴史散策（伝えたいふるさと心の心）
07.12	後期高齢期を健やかに（高齢社会について 他）	11.11	いつまでも笑顔で暮らすために
07.12	狭山茶 里めぐり（茶業特産研究所訪問記 他）	11.11	隠れた魅力&トピックス ときめく狭山
08.03	エコロジー わたしをすてないで	11.11	達人シリーズ（リーフレット）
08.03	あなたのテレビ、大丈夫？高齢者のための地デジガイド	12.03	行雲（物の整理 心の整理「座談会」 （タイの寺院と自然葬 絆と御霊をみつめた「敬宗和尚」の思い出 フォト・エッセイ【もず物語】 こころのスケッチを切り替えてのおひとりさん 昨年の夏のたび 他）
08.03	富士山が見える狭山市の風景	12.03	「みんなの知らないさやま」
7期生		10期生	
08.07	J7th Friends インタビュー集	12.11	「仲間」 インタビュー集
08.09	地域包括支援センターリーフレット	12.12	達人シリーズ（リーフレット）
08.11	壁新聞 あんてなカフェ	12.12	健康チャレンジ in 狭山 毎日続けてみよう（市の健康づくりの取り組み）
08.11	壁新聞 ミニ・コミ さやま	12.12	アンチエイジング★食事と運動と生きがいと（ネバネバ食でいきいき長生き 他）
08.12	壁新聞 J姫新聞（びかびか観音様 徳林寺の新名所	12.12	生活習慣病なんか吹っ飛ばせ！
08.11	壁新聞 狭山ジャーナル（振り込め詐欺拡大 他）	13.03	ハッピーライフ～今を楽しむ～ エッセイ集
08.11	壁新聞 ロハス タイムズ	13.03	ジャーナル学科との出会い
09.03	笑いぶくろ（芸がきっちりしないとお客様は笑わない）	13.03	しなやかに生きる ★人生いろいろ （ボランティア活動 相続について 他）
09.03	困った時のお助け便利帳		
09.03	ためして エコエコ ガッテン		
09.03	ふるさとの川 水清く		
09.03	時代に生きる STEP UP		
8期生			
10.09	とうかえで～みんな生き生き元気な樹 インタビュー集		

修了生インタビュー ただいま活動中

継続は力なり

2004年の学科修了と同時に「狭山ジャーナル同好会」を立ち上げ、6月に同人誌「ジャーナルスケッチ」第1号を発行。2013年1月で68号になった。



第2期生 塚原 早苗さん

現在は隔月の発行で、毎回、各人が自分の原稿を、自宅で16部（会員12名＋予備4部）を印刷して月例会に持って行き、製本して会員に渡す。その際、必ず前回の冊子の講評がある。

文章を書く時は、ジャーナル学科で学んだ資料と講評を頭に浮かべながら書いている。

同人誌の内容は会員だけが共有する事とし、仲間の信頼関係が成り立っている。

ただ、2006年9月（No23）「ジャーナルスケッチ」敬老特集号「輝く高齢者を訪ねて～生き生き元気の秘訣を知りたい～は、狭山市に暮らしている16名の方のインタビューを中心に編集され、“地域へ情報を発信することを目的に、狭山市役所・図書館に配布する冊子にする”をコンセプトに制作された。

2007年10月から始めたブログ「私は畑のおばさんよ」は離れて暮らしている息子たちに日常生活を知ってもらう事を目的とし、毎日書いている。

ブログ名は“家庭菜園や花を育てることが好き”から付けた。

“わかりやすい文章を書く、書き終わったら文章の確認のため、声に出して何度も読み直す”事を心がけている。

新たな活動に向かって

2011年3月11日（金）「狭山市ユースプラザ」で修了冊子の印刷中に「東日本大震災」が起きた。



第8期生 村上 義光さん

その時に作成した修了冊子は、くしくも「できることから

2012年11月、横利根川で全長40.2cmのへら鮒を釣り、大型賞を獲得した写真。

始めてみよう」～楽しくボランティア～だった。

早速、被災地で救援ボランティアをしたいと考え、3月29日から4月14日まで宮城県わたりちょう亘理町の社会福祉協議会の仮設ボランティアセンターで活動した。

ボランティアの体験記は2011年9月5日にジャーナル学科8期修了生OB会「とうかえで8期会」の会員へ情報発信した。OB会名の「とうかえで」とは「狭山市ユースプラザ」の裏にある「とうかえでの木」の事である。現在も、3ヶ月に1回、会員から原稿を募集し、PDF版の小冊子に編集し、会員にEメール配信している。

また趣味の「城北月曜へら鮒会」の広報を担当し、「へら鮒つり月例会ニュース」の作成・配信をしている。

ジャーナル学科に入学した動機のひとつに将来、自治会活動に役立つだろうと思って受講した。そして今年の春から自治会活動に携わる事になった。

ジャーナル学科で学んだ資料作成スキルや、モチベーションの高まりを趣味活動や、自治会活動の広報作業に貢献できることを喜びとして頑張っていきたいと考えている。

（取材・文 黒田ゆかり）

ジャーナル学科のこれから

ジャーナル学科が地域ジャーナリストの養成を始めて10年、200名の修了生を擁しています。今後、当学科も変わっていくでしょう。2013年度からはWeb上での情報発信も加えて学習することになります。これらを踏まえジャーナル学科の今年度からの変化、情報媒体の変化、さやマルシェ、ブログ等について眺めていきたいと思います。

2013年度からの変化

SSCC運営委員長は「ジャーナル学科」の2013年度募集にあたり「パソコン教室で授業を行うため、パソコンを用いた授業が可能となりました。従来の紙メディア上の編集は無論、ネット上での編集・学習もおこないます」と発表しました。

またジャーナル学科修了生の再受講が可能となりました。



時代の変化に対応していくため、紙媒体（有限）にプラス、インターネット（不特定多数）の媒体を活用して、次年度のジャーナル学科は継続的に情報を発信していくことへ挑戦していきます。

メディアの変化

ここ10年ジャーナル媒体の中心であった新聞が発行部数の遞減をきたし4800万部を切っています。出版物の傾向も出版販売額で推計してみますと、書籍は1996年をピークに長期低落傾向が続き、月刊誌、週刊誌

ともに1997年でピークを迎え、以降13年連続のマイナスになっています。以上のよう
に紙メディアは苦戦を強いられています。

一方、インターネットの利用者数は10数年にわたり伸び続けています。2011年総務省発表の白書によれば、2010年末のインターネット利用者数は9,462万人になっています。また個人がインターネットを利用する際に使用する端末については、モバイル端末が7,878万人、パソコンが8,706万人となっています。紙ベースの媒体はなくなるものの、変化のうねりはかなり早いものとなっています。

さやマルシェ

狭山市公式モバイルを開くと、キーワード検索、震災関連情報、震災関連者の皆様へ、メール配信サービスについて、の項目があります。一方、市民交流促進ポータルサイトがありジャーナル学科の活動も発信されると思われます。ジャーナル学科で学んできた者として発信し続ける使命が課せられその他の課題もたくさんでてくると想定されます。仲間同士の冊子から脱皮できるチャンスかもしれません。

ブログあれこれ

継続して発信し続けるという意味ではブログについて知っておく必要があろうかと思います。定期的な冊



子制作もそれなりに重要でしょうが、ブログの作成方法を学んで地域ジャーナリストとして自らの発信を繰り返すこともやって良いと思います。このブログに加えてこれからは「ツイッター」や「フェイスブック」が発信の主流になる可能性があります。

（取材・文 蓑輪武士）

みんなから一言

*最近学生時代の夢をみる。ある時は「暗夜行路」の最終場面。主人公、時任謙作が大山に登り山を背に眠りに落ちていく場面。自然に溶け込む自分、芥子粒程に小さい自分を無限の大きさに包んでくれる自然。自分と自然の流れに逆行するように、私は、学生時代は社会に反抗し、社会人になってからは会社に反抗し、結婚してからは家庭に反抗し、これからは何に反抗しようとしているのか。 (加部)

*一年間の授業で、情報のとらえ方・伝え方を学び、あらゆる出版物の見方が変わりました。私の中に新しくできたアンテナで、これからもたくさんの情報をキャッチしていきたいと思います。この冊子でインタビュー記事の制作に際して、塚原早苗様と村上義光様にご協力をいただきました。ありがとうございました。 (黒田)

*アンケートをお願いするにあたり、回答が少なかったらとの危惧がまずありました。結果は予想以上の反響の大きさに驚きました。OBの方々が学科修了後、地域活動、仕事、ボランティア、同人雑誌の発行等多く場で活躍されていることにジャーナル

学科の意義、この学科を受けた誇りを感じました。特にアンケートの「最後の一言」には多くの方が、欄に収まりきれないほどの熱い思いを綴ってくださいました。修了を間近に控えたものとして地域ジャーナリストとしての強い使命感を感じると同時に勇気を与えられました。

(鈴木)

*修了生のみなさま方は、学科修了後、すぐに同好会を立ち上げ、同人誌を発行、現在まで続けておられる方、ブログ、パンフレット、自治会の広報づくり、ボランティア、趣味にといきいきと活動されていた。まさに「継続は力なり」。この活躍はやはりジャーナル学科だと思う。

10期生、私たちもやがて修了する。

(匹田)

*今回の冊子に関して企画会議で議論を重ね、台割表の見直し等、班全員で合意してすすめ、インタビュー時にも全員同席。私のテーマ「ジャーナル学科のこれから」は苦戦を強いられ加部さんはじめ皆さんに助けていただきました。また、澤野先生、米田さん、田中さん、秋山さんとの短い時間の懇談も全員で参加でき、有意義でした。感謝申し上げます。

(蓑輪)

ジャーナル学科との出会い

発行日	2013年3月10日
発行	狭山シニア・コミュニティ・カレッジ (SSCC)
指導講師	澤野 久美子
編集	加部利明・黒田ゆかり・鈴木房子・匹田文子・蓑輪武士
SSCC 事務局	〒350-1380 埼玉県狭山市入間川1丁目23番5号 狭山市教育委員会生涯学習部社会教育課内 Tel.04-2953-1111 内線5673